——その思想と文学——　原　孝義
漱石文学とリアリズム　大浦賢太郎
中原中也の歌　加藤正二
宮沢賢治試論
1「オッペルと象」・「カイロ団長」における思想について——　石津　隆

△国語学▽
幸田　文の文体　萩原淳子
川端康成の文体について　服部みどり
現代の待遇表現　藤木順子
萩原朔太郎の詩の文体　井上玲子
京言葉の敬語　松木晴美
備中方言の歴史的考察
——草木を主として——　水川玲子
蒙求抄における複合語の研究
「動詞＋補助動詞」七種の意味
——アスペクトとテンスをめぐって——　高橋由美子

昭和四十九年度修士論文題目

紫式部成立考
——紫式部日記との関係について——　上田記子
平家物語諸本における一考察
——女院関係記事の定位——　三島信子
天孫降臨神話の一研究　吉野政治

編集後記

間もなく梅もふくらむことだろうが、第十一号をみなさんの手もとにおとどけできるのは嬉しい限りである。どうか『同志社国文学』が会員諸子の心の結び目であってほしい。そしてみんなの研究や願望が発表される場であってほしい。

山鹿素行のことばに「凡そ物必ず十年に変ずる物なり」とあるそうである。たしかに十年という歳月は個人においても重みを持っている。われわれの『同志社国文学』もそろそろ内からの変革が必要なのではあるまいか。それをべつなことばでいうと、若き執筆者の出現と、清新な方法論の展開である。一時代の作品に限られることなく、特定の分野に執することなく、各方面から生気溢れる研究が続出することを祈りたい。

経済危機の叫ばれている時期ではあるが、今冬も温暖な日が続いている。この春巣立ち行く学生も、また職場や家庭にて活躍している卒業生諸君も、どうぞ本誌に声援と批評を寄せられんことを……。

（黒沢幸三）

執筆者紹介

黒沢幸三……昭和四〇年度大学院（修士課程）修了生
愛知教育大学助教授・本学嘱託講師

駒木敏……昭和四三年度大学院（修士課程）修了生
聖徳学園岐阜教育大学講師
本学嘱託講師

寺川真知夫……昭和四六年度大学院（修士課程）修了生
兵庫県立武庫高等学校教諭

原田敦子……昭和四四年度大学院（修士課程）修了生
本学嘱託講師

上田記子……昭和四九年度大学院（修士課程）修了生
本学女子高等学校講師

星田公一……昭和四七年度大学院（修士課程）修了生
大阪府立池田高等学校教諭

内田満……昭和四八年度大学院（修士課程）修了生
平安女学院高等学校教諭

玉村文郎……本学助教授

小関真理子……本学大学院学生

（表紙題字　土橋　寛）

投稿規定

国文学会機関誌「同志社国文学」は、会員諸氏の研究発表の場でありますから、進んでご投稿下さい。枚数は四百字詰三十枚以内。第十二号締切は昭和五十一年九月末日厳守。ただし、掲載論文の数には限度がありますので、論文の採択は編集委員会に一任して下さい。

同志社国文学　第十一号

昭和五十一年二月一日　印刷
昭和五十一年二月五日　発行

編集者　同志社大学国文学会
代表　土橋　寛

発行所　同志社大学国文学会
京都市上京区烏丸今出川
振替　京都二七三七

印刷所　明文舎印刷株式会社
京都市南区吉祥院池ノ内町一〇